長野原町で一緒に、暮らし、働きませんか？

長野原町長
萩原 睦男（はぎわら ちかお）

昭和46年、長野原町応桑生まれ。平成26年、町長就任。大学卒業後はプロボクサー、モデルなど転身し、世界放浪旅をするなど異色の経験（！）を持つ若手町長。ダム湖完成前には日本一の高さのバンジージャンプに挑戦する姿が注目を集めた。

――長野原町の魅力は？

萩原町長（以下町長）　私は長野原町の応桑という地域で育ちました。若い頃は町を出たいとばかり考えていて、世界中を放浪して回ったこともあります！世界ではすばらしい景色もたくさん見ましたが、あるとき自分の町も満更ではないなと気がついて。浅間山の裾野に広がる雄大な自然と、新しく生まれる湖。それらを繋げて、この町の力強さと美しさ、本来の底力を発信していきたいなあ、と。

竹内会長（以下会長）　私も町を出てしばらく東京でインフラ工事のプロジェクトに関わっていました。仕事は面白かったですが、やっぱり故郷はほっとするんですよね。東京の友人はわざわざ草津や北軽井沢に遊びに来て「ここはいいところだなあ」と言うんです。町に戻ってしばらくしたら八ッ場ダム工事が始まり、生まれ育った場所が日に日に変わっていくのを目の当たりにしました。これからはいよいよダム湖を拠点とした観光事業を本格化していく時期になります。

――長野原町の移住定住促進に向けた動きは？

町長　実は長野原町には住民世帯数を上回る別荘件数があります。昭和初期にさかのぼる北軽井沢エリアの避暑地としての歴史があるからなのですが、これらの別荘も今では使われていないものも多く、こうした建物をベースにたとえば「ワーケーション」と呼ばれる夏場の休暇を兼ねたテレワークの拠点やサテライトオフィスとして利用してもらうなどもひとつの可能性だと考えています。移住定住に対してはこのほか空き家バンクなどいくつかの施策を行っていますが、人口減少社会のなかで、パイの取り合いではなく、住民が生き生きと暮らせる持続可能な地域社会をどう維持していくかが課題だと考えています。

会長　別荘がこれだけ多いということは、この町に都会にはない魅力があるからだと思います。行政と民間の不動産や建築会社が連携して、別荘を含めた空き家のリフォームや活用法を検討していきたいですね。

――これからの町の「仕事づくり」は？

会長　今、全国どこでも中小の企業は事業継承を含めて厳しい状況を迎えています。ただ当町で言えば、今回この冊子で紹介する建設業などでも、他社と連携してチームで働くといったスタイルが見られます。仕事内容の幅が広がるだけでなく、新規で仕事を始めようという人でも参入しやすく、頼もしい動きだと思います。商工会全体を見ても、廃業より創業が上回っており、未来に向けて明るい兆しが見えます。

町長　町では5年前から、町内で起業する事業者を支援するための補助金制度(※)を始めたところ、年々利用者も増えています。そのなかには、よそから移住してきたご夫婦や、子育てと並行しながらお店を開く地元のお母さんなど、若い世代の活躍も目立ちます。八ッ場ダムの完成とともに飛躍の年を迎えた長野原町を、若い活力でぜひ盛り上げてください！

長野原町商工会長
竹内 猶則（たけうち なおのり）

昭和35年、長野原町横壁生まれ。平成30年より商工会長を務める。都内の土木、建築系の専門学校卒業後、建設会社に勤務し都市土木事業を経験し、30歳の時に帰省し現在の東光建設に入社。長野原町の一大事業の八ツ場ダム関係の建設事業に携わると共に地域再建に力を注ぐ。

※「起業支援事業補助金」の詳細など、町の移住・定住支援策については22ページをご覧ください。